

美術工芸品修理用具・原材料継承の 取り組みについて

資料 3

文化財修理センター（仮称）の
在り方に関する検討会（第3回）
R4.8.31



生産技術継承の問題に直面する数多くの用具・原材料

- 左) 〔染織品修理〕 在来種の養蚕（勝山織物絹織製作研究所・長野・上伊那郡飯島町）
- 中) 〔装演修理〕 手漉きの楮紙（本美濃紙保存会・岐阜・美濃市）
- 右) 〔彫刻修理〕 手打ち刃物類（鑿）（（公財）美術院・京都市）

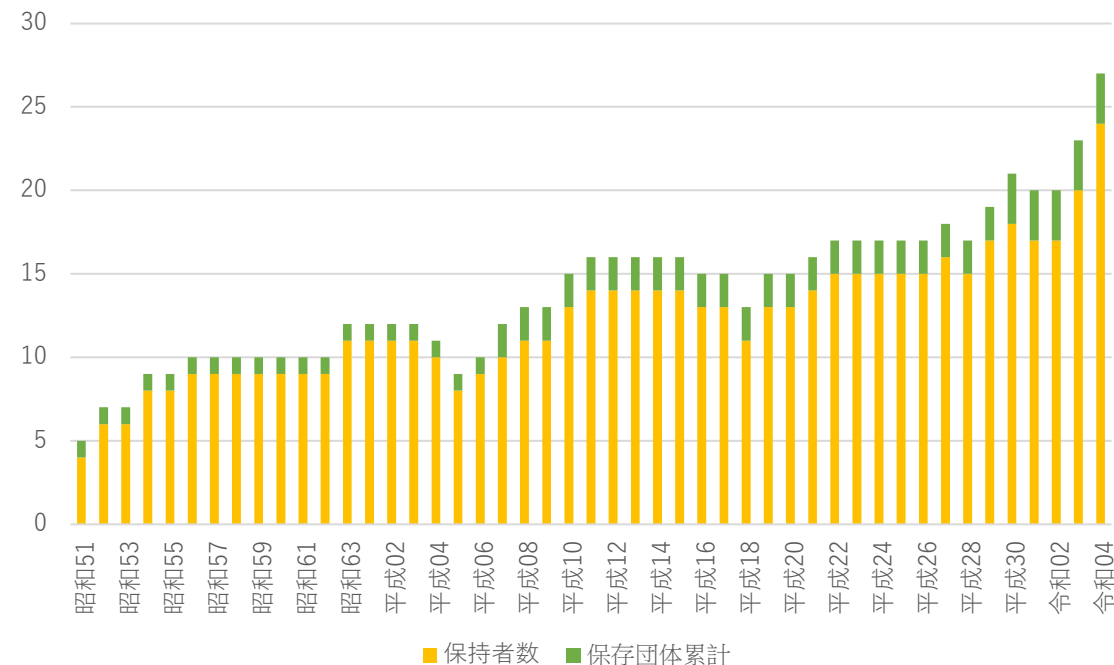
令和4年8月31日
文化庁 地主 智彦

○文化財保存技術の保護（昭和50年度～）

- ・ 選定保存技術 「文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術・技能で保存の措置を講ずる必要があるもの」
(文化財保護法第147条)
- ・ 制度成立の背景 高度経済成長の進展による生活様式の変質のなか、伝統的な手仕事を担う職人の減少
「**技術者の高齢化**が著しく**後継者難**のため今後の文化財保護に大きな支障を来すおそれのあった」(文部科学省『学制百二十年史』)

○文化財保存技術（美術工芸品関係）の内訳

- ・ 選定保存技術保持者・保存団体数の推移（美工品関係、グラフ1）
長年、15～20件程度で推移。匠プロジェクトの推進のなか最近件数増加。団体3、個人24（個人の比率が高い）
- ・ 美術工芸品関係の選定保存技術の種類
修理技術 7 件 用具・材料製作技術 20 件
原料生産技術 0件
- ・ 用具・原材料の確保への対策
補助対象事業に「用具・原材料の確保」
⇒ 平成20年代より、複数の分野で用具・原材料の入手困難の不安がとくに増大化
⇒ 生産者の減少と高齢化、後継者不在の**実態把握**と、**新規対策構築**の必要性に迫られる



■ 保持者数 ■ 保存団体累計
(グラフ1) 選定保存技術保持者・保存団体数の推移（美術工芸品関係）
(昭和51年～令和4年)

○文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査（平成9～12年）

- ・文化庁が調査研究協力者会議を組織し、全分野対象に調査実施（報告概要『月刊文化財』461、平成14年2月）

「（用具・原材料）確保のための方策」

Ⅰ 絶対的に不足するものの確保

- ア 栽培等の推進（国・地公体の支援のありかた検討）、生産地等保全制度の導入（⇒「ふるさと文化財の森」（建造物主導））
- イ 現有品の確保、代替品の研究、ウ開発規制の強化、採取に係る規制緩和

Ⅱ 生産量減少に対する確保

- ア 選定保存技術制度の充実
- イ 用具・原材料の生産などの活動及び従事者に対する支援策（⇒「美術工芸品修理用具・原材料管理等業務支援事業」）
（①生産地等保存制度の導入、②使用者等による、調査研究、買い上げ、斡旋等の実施、③後継者養成に対する支援策）

Ⅲ 望ましい品質等入手困難、流通経路の途絶への対策

- ア 省庁などの連携による用具・原材料の研究、関連情報の提供
- イ 地方公共団体の役割
- ウ 一層の周知（「文化財原材料・用具百選（仮称）」）

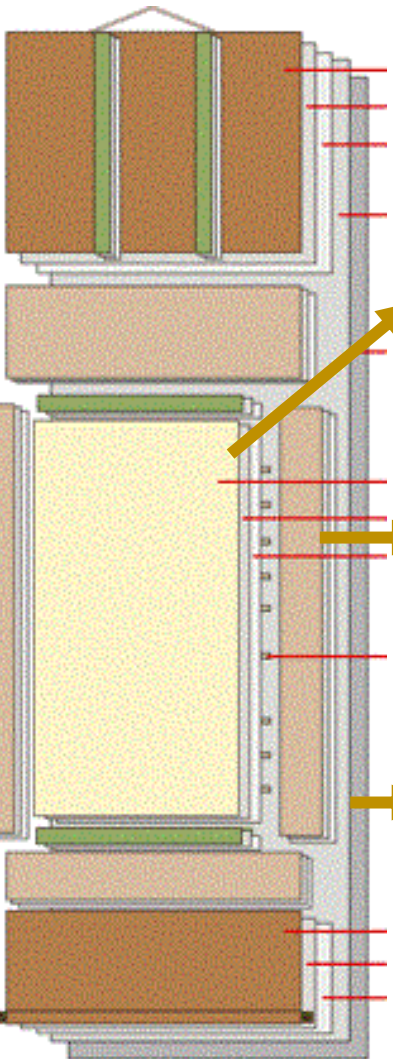
2 伝統的な用具・原材料の必要性 ー掛幅装の裏打紙を例にー

掛幅装の裏打紙 概ね4層の裏打紙を貼付け、文化財本紙を支える。装幀技術の発展のなかで、機能性に応じて裏打紙が使い分けられるに至った。

必要性 ①機能性の発揮、②物理的、化学的に安定 ⇒ 本紙の劣化、損傷への影響が小さい、長期の保存・活用に資する

掛幅装の構造

掛幅装の裏打紙3種の原料・品質・機能



1層目(肌裏紙) 本美濃紙(*重無)

▶原料

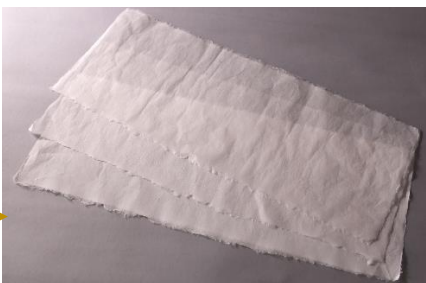
楮(ナスコウゾ[茨城産])
トロロアオイ(茨城産)

▶品質

薄い、均質、丈夫、中性

▶機能

文化財本紙の絹、紙を直接支える



2・3層目(増・中裏紙)美栖紙(*選定)

▶原料

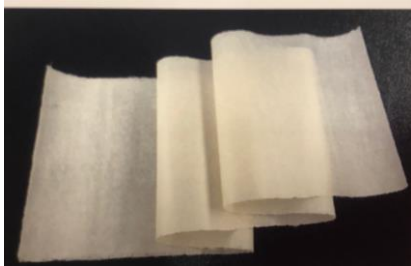
楮(アカソ[高知産])
トロロアオイ(茨城産) / 胡粉

▶品質

薄い、均質、柔らかい、丈夫、弱アルカリ性

▶機能

本紙を柔らかく、支える。弱アルカリで、酸化を緩和する。



4層目(総裏紙) 宇陀紙(*選定)

▶原料

楮(ナスコウゾ[茨城産]など)
ノリウツギ(北海道産) / 白土(奈良産)

▶品質

形状安定性が高い、均質、丈夫

▶機能

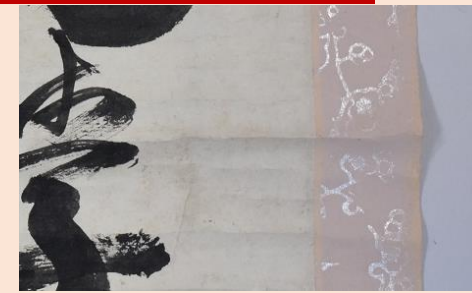
裏側に露出して表具全体を支える。巻き解き、擦れに強い。

原料、製法の差異により、物性が異なる
⇒ 各々の機能性を発揮

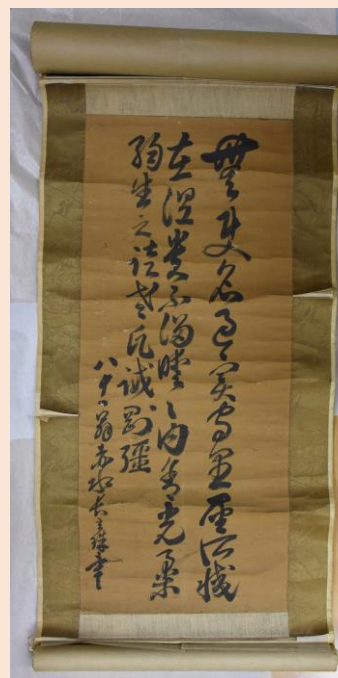
黄色: 入手困難な原料

美栖紙・宇陀紙は生産者が1軒のみ

品質の低い紙を使用した場合の劣化・損傷



折れ、浮きからの絹や紙の欠損の進行



紙の酸性化による
変色やフォクシング

・劣化・損傷の進行が速い
・破損・欠損箇所は復元不可能
・フォクシングなどのシミも消すことはできない
⇒ 文化財修理ではなく、破壊行為に

表装の劣化・酸性化から本紙・表装の損傷の拡大

3 伝統的な用具・原材料の入手危機の状況 — 選定保存技術・表具用手漉和紙（美栖紙）製作を例に —

★美栖紙 奈良県吉野地方の伝統的な薄紙。繊維の細い高知県産のアカソ（楮）を用い、胡粉（イタボガキ）を多量に加える。薄く柔らかい紙で掛軸の裏打紙に必須。
 ・製作者 上窪良二氏の工房 **1軒のみ**。現在、20代の女性が技術の伝承者として共に働くが、技術の習得には、あと5～6年を要する。

・**原材料** 楮（栽培者、加工者）、木灰、トロロアオイ、胡粉（イタボガキ）、古糊、**用具** 刃物、簀・桁（①竹ひご、②編糸、③桁金具）、刷毛、干し板、打刷毛

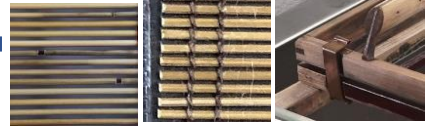
（*）美術工芸品修理用具・原材料管理等業務支援事業対象



トロロアオイ栽培（*）
 茨城県小美玉市、生産者の減少、高齢化

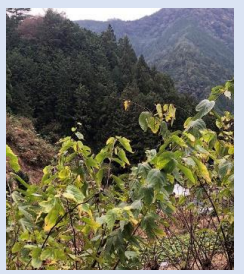


手漉和紙用具製作
 選定保存技術保存団体事務局高知県



原料調達が懸念される簀・桁の原材料
 竹ひご、編糸（絹）、金具（銅）

楮栽培・加工



楮栽培（*）
 高知県の町、楮生産者の大半が高齢者



黒皮剥ぎ（へぐり）（*）
 高知県の町、こちらも従事者は80歳代以上が主力用具（刃物）



選定保存技術・装幀修理技術



美栖紙の裏打ち施工
 古糊と打刷毛を用いた伝統的な工法にて施工



掛幅装の完成

○特徴

- ①用具・原材料の生産の現場を訪問すること。再訪も実施。
- ②選定保存技術保持者・保存団体構成員、東京文化財研究所 研究員、文化庁文化財調査官が各々の視点で参加し意見交換。
- ③美術工芸品管理等業務支援事業の適用を検討することをはじめ、適宜協力して課題に取り組む。

○調査実施対象

- ・調査対象は、多分野にまたがり、全体では多くの品種、産地に及ぶ。年間10件前後の調査を継続実施中。
- ・実績は右表のとおり。紙関係が先行。
『月刊文化財』684、第一法規、令和2年10月号参照

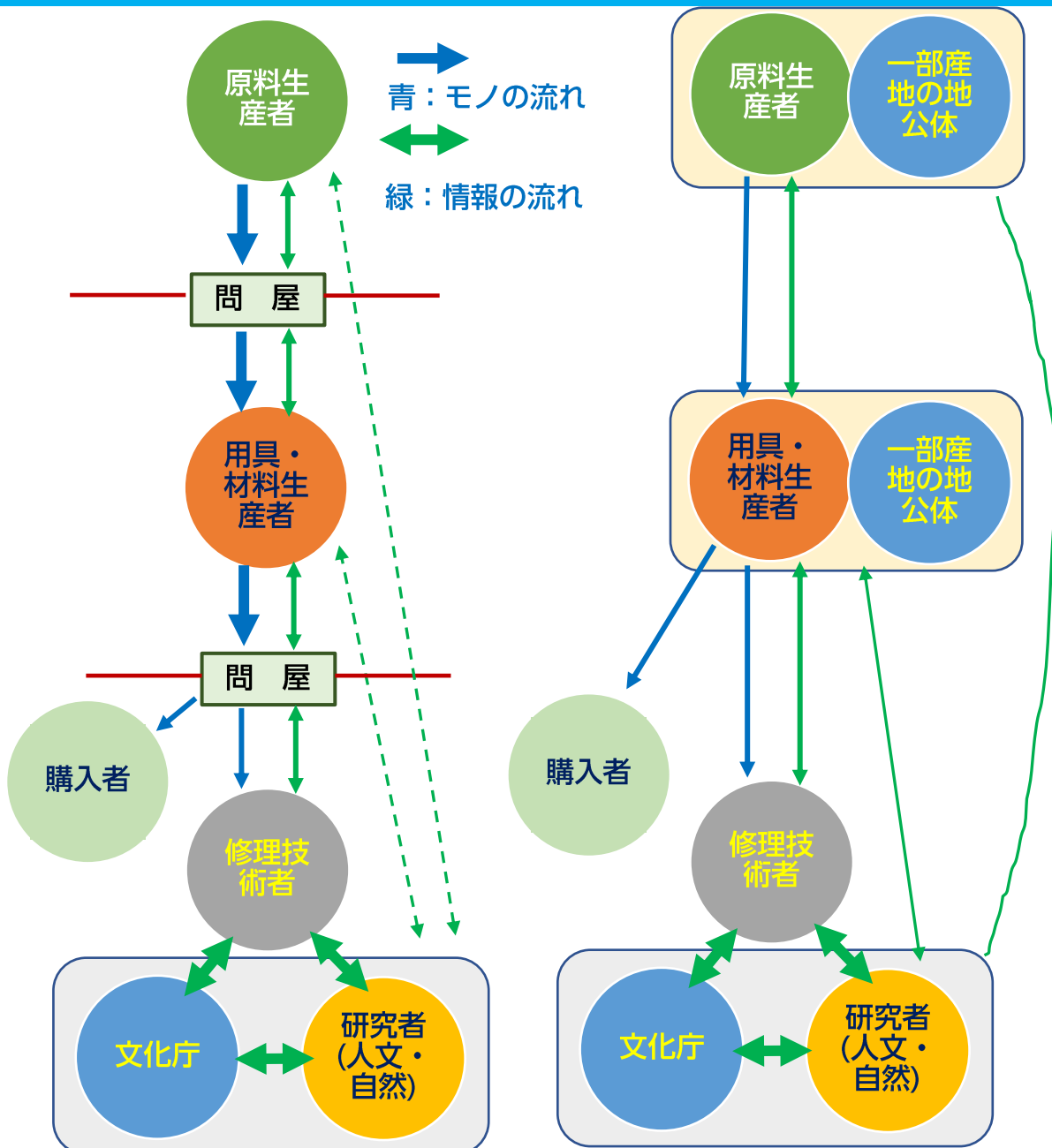
| | | | |
|----|----|-------------------------------|--|
| 装潢 | 原料 | 楮（那須楮） | 茨城県久慈郡大子町 ○ |
| | | 楮・トロロアオイ | 埼玉県秩父郡東秩父村 富山県南砺市東中江 ○ 岐阜県美濃市 島根県浜田市三隅町 |
| | | 楮（アカソ他） 楮（アカソ他）・ トロロアオイ | 高知県吾川郡いの町 ○ 高知県吾川郡仁淀川町 ○ |
| | 材料 | トロロアオイ | 茨城県小美玉市 ○ 埼玉県比企郡小川町 |
| | | ノリウツギ | 北海道枝幸郡浜頓別町 北海道天塩郡幌延町 北海道苫前郡初山別村 北海道標津郡標津町 ○ |
| | | 間似合紙 | 兵庫県西宮市名塩 |
| 彫刻 | 用具 | 簧・桁 | 岐阜県美濃市 高知県吾川郡いの町 |
| | 原料 | 檜大径木 | 長野県木曾郡上松町 |
| | 材料 | 砥の粉 | 京都府京都市 |
| | 用具 | 打刃物 | 東京都西東京市 兵庫県神戸市 兵庫県姫路市 |
| 工芸 | 材料 | 白鞣し革 燻べ革 | 千葉県松戸市 |
| | 原料 | 桑 | 長野県上伊那郡飯島町 ○ |
| | 材料 | 絹糸・絹織物 | 長野県上伊那郡飯島町 |
| 全般 | 材料 | 絹糸 | 長野県岡谷市 |
| | 用具 | 天然砥石・青砥 | 京都府亀岡市 ○ |



桑栽培（長野県上伊那郡飯島町）
無農薬栽培には手間暇がかかる
桑苗の確保も課題



桁製作（岐阜県美濃市）
桁製作だけでは生計がなりたたない
製作者数は極めて少ない



○美術工芸品の用具・原材料をめぐる概況

- ①原料生産者の減少、高齢化、後継者の不在
⇒「生産技術喪失」の危機
背景に、需要の減少、生業にならない、重労働、獣害など
- ②流通ルートの変化（市場の減少と問屋の消滅）
問屋の機能の喪失
⇒生産者が販路を確保、開拓する必要性
⇒売り手と買い手が直接意見交換できる環境の出現
- ③「文化財に不可欠な原料」という認識の欠如
⇒特産地の自治体でも認識されていない場合が多い
*自治体支援の有無は大きな影響

○個別事例～本美濃紙保存会の取り組み

那須楮生産地の茨城県大子町の楮農家と直接交流

- ・大子那須楮のブランド化
- ・黒皮剥ぎ（「ヒョヒトリ」）技術研修の実施

（成果）
「顔の見える関係」により、「親近感」がわき、「生産意欲が向上する」（生産に付加価値や意義を加える）

（課題）
事業実施の「取りまとめ役」の存在が必要
安定した需要見通し（5～10年）が必要
*市場任せにはできない、補助金頼みも問題
*後継者は簡単に生まれない

（期待されること）
①需要維持・拡大の施策、②事務・企画人材の養成・配置

5 美術工芸品修理用具・原材料管理等業務支援事業（国庫補助事業）の実施

○事業創設の背景

- ・ 美工品の原材料生産の特徴 **少量・多品種・高品質**
生産者が複数、流動性あり
継続性を求める
⇒選定保存技術の選定対象に不向き
⇒管理等支援事業の創設

○事業概要

- ・ 事業創設 令和2年度（本年度3年目）
- ・ 事業主体 個人もしくは団体
- ・ 事業目的 美術工芸品修理に**実際に使用する用具・原材料**の製作・生産
- ・ 事業内容 管理・生産、用具・原材料確保、調査・研究、研修、後継者育成、記録作成、普及啓発
- ・ 補助率 50%/70%(20名以下の事業者)
- ・ 事業実績 R02 10事業（原料9、材料1）
8,242千円/11,920千円（補助額/事業費）
R03 22事業（原料13、材料9）
20,048千円/31,857千円（同上）
R04 24事業（原料15、材料9）
26,143千円/40,764千円（同上）

美術工芸品修理に必要な主な用具・材料と原料

| 用具・材料 | | 主たる原材料 | |
|----------|------------------------------|--------------------|---------|
| 〈各分野共通〉 | | | |
| 各種刷毛・筆 | | 獣毛（馬・鹿・狸等）、植物繊維、檜板 | |
| 竹物差 | | 竹 | |
| 打刃物・彫刻刀類 | | 鋼板 | |
| 砥石 | | 各種天然砥石（とくに青砥） | |
| 膠 | | 牛・鹿・兎・膠等 | |
| 布海苔 | | 布海苔 | |
| 小麦澱粉糊 | | 小麦 | |
| 漆 | | 国産漆 | |
| 篋木 | | 檜 | |
| 研炭 | | 朴その他 | |
| 角粉 | | 鹿角 | |
| 各種木材 | | 檜、杉、松、樺等 | |
| 〈装潢〉 | | 〈工芸品〉 | |
| 用具・材料 | 主たる原材料 | 用具・材料 | 主たる原材料 |
| 盤板・仮張 | 檜/檜・下張紙・柿渋漆 | 補修用裂 | （在来種）絹糸 |
| 簀・桁 | 萱・竹・編糸・檜等 | 小袖綿 | 真綿 |
| 装丁用紙 | 楮・雁皮、三椏・竹等、 黄蜀葵、糊空木、白土、胡粉 | 手打刺繍針 | 鋼 |
| 唐紙 | 朴、顔料、雲母 | 手打ち鑢 | 鋼 |
| 下地骨 | 杉 | 白鞣し革 | 牛皮 |
| 框（呂色塗） | 檜、漆、砥の粉、研炭 | 燻べ皮 | 鹿皮等 |
| 中軸・軸首 | 杉・黒檀・紫檀等 | クテ打ち組紐 | 絹糸・染料 |
| 表装裂 | 絹糸、金銀系、染料 | | |
| 補修絹・薄絹 | 絹糸 | | |
| 鍔金具 | 銅・銀・金・各種合金 | | |
| 漆工品 | 漆・夜光貝等 | | |
| （軸首・保存箱） | | | |
| 牙製品 | 象牙 | | |
| （軸首・小鈎等） | | | |

（参照『月刊文化財』461、令和2年10月）

5 美術工芸品修理用具・原材料管理等業務支援事業（国庫補助事業）の実施

【個別事例】

○ [原料] 楮栽培・加工事業（R03、395千円／565千円）

事業者 上東を愛する会（高知県のいの町）

事業内容 楮加工人件費、高校生への研修講師謝金、肥料代、草刈機代など

○ [原料] トロロアオイ栽培事業（R03、912千円／1,303千円）

事業者 新ひたちの農業協同組合ネリ部会（茨城県小美玉市）

事業内容 肥料・農薬代、段ボール代、掘取機代

○ [材料] 表具裂(綸子)製作事業

(R03～R05、821千円／1,174千円 (R03))

事業者 (株)坂田墨珠堂（滋賀県大津市）

事業内容 ①前近代の綸子の調査、糸調達（座繰製糸）
②機・綜統設計、紋図製作、手べいによる整経
③製織（丸数字は年次）

○成果と課題

（成果）生産継続に一定の見通し、生産者と消費者等との関係性の構築

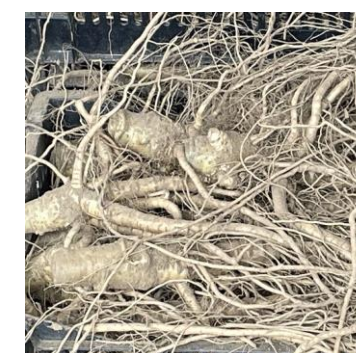
（課題）事業継続的適正の実施ために情報交換の継続

新規参入者、後継者育成を行うことができる基盤づくり

当該事業に不向きな分野（地質・獣毛等）への支援のありかた



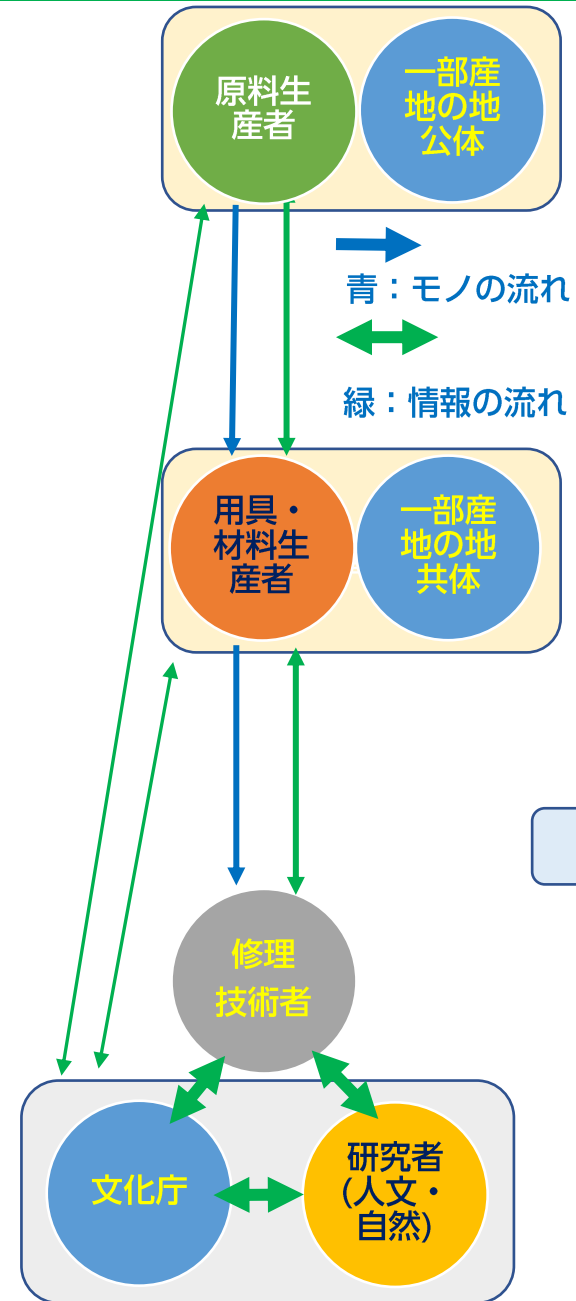
楮栽培・加工（高知県のいの町）
楮の生産者・加工者は高齢化が顕著、若い後継者の確保が急務。



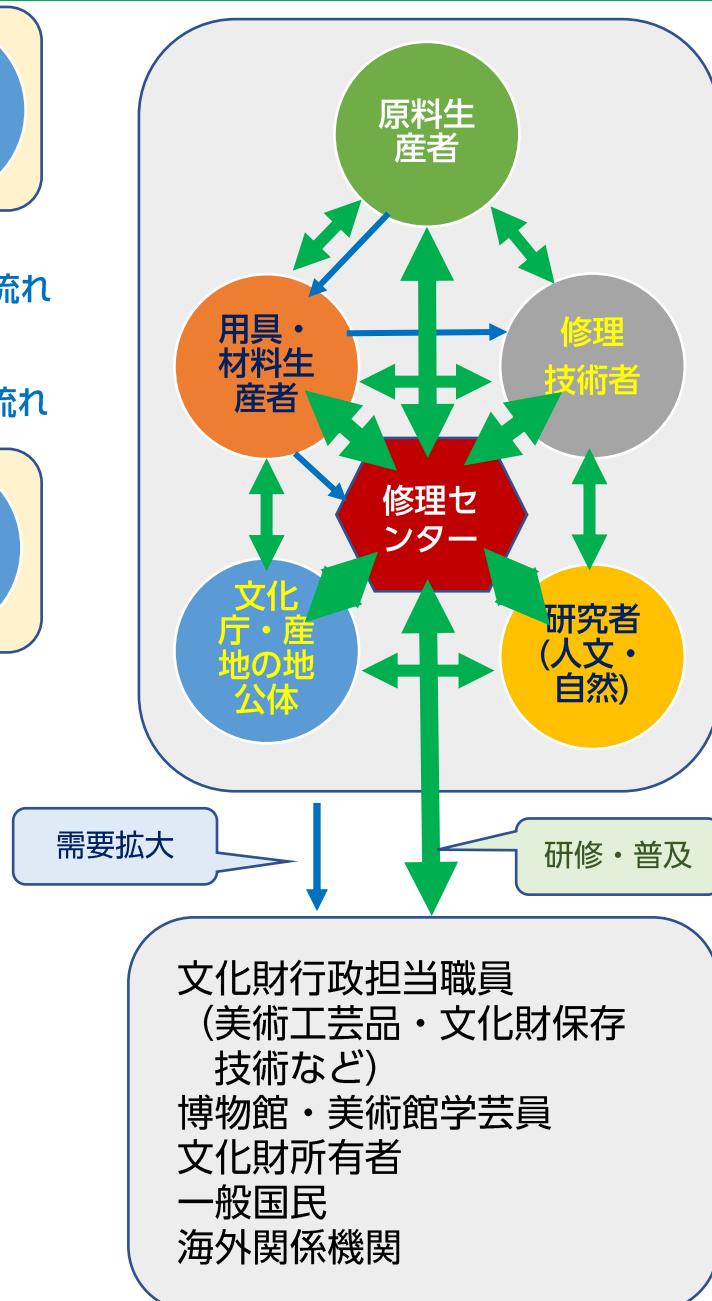
トロロアオイ栽培（茨城県小美玉市）
生産量は全国の9割前後を占めるが、60歳以下の栽培者がいない



表具裂(綸子)製作事業（滋賀県大津市、絹糸は愛媛県野村町、製織は京都市）
現代では織られることのない、19世紀以前の綸子を極力復元的に製織する



模式図（問屋廃業後の状況）



模式図（修理センターの位置づけ）

[用具・原材料生産技術継承のために期待される施策]

情報の集約と発信・共有、文化財保護の理解者の増大
 ⇒修理需要の増大、用具・原材料需要維持、拡大
 ⇒中核となる人材の育成、人と人とのつながりの創造を期待

①正確、必要な情報の共有、更新、情報発信

- ・生産者の状況、課題の逐次共有（⇒生産者支援へ）
- ・用具・原材料の品質・形状、製作法、使用法の記録
- ・用具・原材料の特質についての情報発信

②用具・原材料生産技術、修理技術の研修・普及

- ・用具・原材料、修理技術の研修
 文化財行政担当職員、美術館・博物館学芸員
 ⇒用具・原材料生産地自治体の意識の向上
 ⇒地方指定文化財、未指定文化財、建造物など他分野の文化財への使用、修理需要の拡大
- ・文化財所有者、一般国民への普及
- ・海外関係機関への普及
 ⇒修理への理解、修理以外での需要の拡大

③科学的検証の充実

- ・用具・原材料の品質
- ・用具・原材料を用いた伝統技術
- ・原料生産技術